

# 新制作 下

会報 No.46

発行

2003年12月20日

編集・発行人

城田 孝一郎

---

発行 新制作協会 〒110-0013 東京都台東区入谷2-4-2 増田ビル202 Tel.03-5603-8350 Fax.03-5603-8360  
<http://www.shinseisaku.jp/>

---



2003年第67回新制作展

## 新会員・受賞者紹介

### 新会員



小島 隆三

◆この度は会員に推举して頂きありがとうございます。今年よりは来年、来年よりはその次と、すこしでも良い絵が描けるよう努力していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

◆一九五〇年愛知県生まれ。一九七五年金沢美術工芸大学卒業。一九八六年第50回新制作展初入選。第63回、64回、65回新制作展新作家賞受賞。



本家 浩一

◆この度は会員推举、ありがとうございました。自分は自分が目指す方向性が見えてきました。そんな中での会員推举は、たいへん大きな自信となりました。人生の通過点の中で新制作会員というのは、誇りであり、大きな自信と力になつていくことだと思います。チャレンジ精神を忘れずに大きく羽ばたいていきたいと思います。

◆一九五五年東京都生まれ。一九八〇年東京造形大学卒業。一九八四年第48回新制作展初入選。第65回、66回新制作展新作家賞受賞。

四宮 敏行



◆この度は会員推举、ありがとうございました。喜びとともにその重責に身の引き締まる思いでいます。

◆この度は会員推举、ありがとうございました。自分は自分が目指す方向性が見えてきました。そんな中での会員推举は、たいへん大きな自信となりました。人生の通過点の中で新制作会員というのは、誇りであり、大きな自信と力になつていくことだと思います。チャレンジ精神を忘れずに大きく羽ばたいていきたいと思います。

### 新作家賞

◆振り返れば本当にモタモタとし、特に後半はヨタヨタともした23年間でした。20代の頃、自分は彫刻で空間のことを考えるのだ、と決めたのですが、考えるごとに造る形とが結びつかず、泡と消えることの連続でした。最近、なんとか空間が彫刻になりそうな感じがするのですが、同時に彫刻の世界の深さにも気づいて、

◆新制作に育てていただき、出来の悪い生徒もなんとかここまで来ることができたという気がしています。会員の先



瀬辺 佳子

◆自分自身を離れ、彫刻とは「こうあるべき」という観念にしばられて長い間仕事をしてきました。しかしある時から、自分には逆立ちしてもできないことがあ

◆30年前、郷土の伝統彫刻を修業中に、夜なべで制作した首を何もわからないままに新制作展に出品し入選しました。それが当選会への出品の始まりです。そ

れから入落を繰り返し、途中で挫折しそうになりながらも、どうにかここまで続けていきたいと思います。

◆一九四五年愛知県生まれ。一九六八年東京芸術大学彫刻科大学院修了。一九七一年第35回新制作展初入選。第56回、66回新制作展新作家賞受賞。



野村 修三

◆一九五三年愛知県生まれ。一九七七年愛知県立芸術大学大学院修了。一九八一年第45回新制作展初入選。第63回、64回、66回新制作展新作家賞受賞。

◆振り返れば本当にモタモタとし、特に制作していきたいと思っています。一九五五年広島県生まれ。一九七八年武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。一九九一年第55回新制作展初入選。第61回、62回、63回新制作展新作家賞受賞。

これからも、この目標を忘れないよう

◆一居弘美(志賀) 片山裕之(岡山)  
菅沼光児(東京) 杉野和子(神奈川)  
中村修二(山梨) 成尾勝己(広島)  
沼本秀昭(広島) 三宅弘子(神奈川)  
彫刻部 奥田真澄(埼玉) 河西栄二(岐阜)

川村 兼章(神奈川) 木方立樹(愛知)  
中谷 聰(長野) 森 智之(岐阜)  
スペースデザイン部  
雨山智子(東京) 正木倫子(千葉)  
山本景子(佐賀)

## 審査雑感

### ● 絵画部審査のことなど

中村貞夫

毎年新制作の絵画の審査の席に並んで、前に創立会員の先生のお姿が見られないのを残念に思うのは私だけではないと思いますが、会も67回を重ねて新しい会員が大勢加わり、今では八〇名位で審査が行われています。

第1日目に審査委員長からその年の審査の進め方等について説明があった後、荒廃りの1次審査が行われます。第2日目は1次審査の残りと2次審査が行われ、作品を二度見ることによって評価が決まります。1次審査で大抵一点に絞られますが、今年は約三〇名が二点保留されました。

当然のことながら審査は厳正に行われています。色々な傾向の作品が目の前に現れます、審査員も色々な傾向の作家がいるわけで、それでバランスが取れて、公平な評価が下されていると思います。

今年の搬入点数は八九一点で搬入者数は三五五名ですから、一人平均二・五点になります。出品作家の数と作品点数は

初入選の喜びを味わう若い作家もいるにちやるでしょうが、今の審査方式では二点残つた作品がほぼ自動的に受賞対象になるので、どうすれば二点残るかが多くの出品作家の課題になつていると思われます。

（絵画部会員）

私は絵は技術とセンスの両輪が整つて成り立つもので、片方に偏しないよう留意されなくてはなりません。また、時流を追つた作品が続くと食傷してしまいます。その作家にとって、もっと別なやり方があるのではないか——拙くても自分の言葉で語ること、自分のオリジナリを見つけ、貫くことが大切です。

今年も二八名の方々が厳しい審査をくぐり抜けて初入選されました。公募展の良いところは、時間の流れとともに常に新しい息吹きが湧き上っていることではないでしょうか。

（絵画部会員）

●彫刻部の審査にあたつて 富松孝侑

（絵画部会員）

荒廃りの1次審査が行なわれます。第2日目は1次審査の残りと2次審査が行われ、作品を二度見ることによって評価が決まります。1次審査で大抵一点に絞られますが、今年は約三〇名が二点保留されました。

（絵画部会員）

審査をするとした展覧会のかたちをとる以上問われることは当然のことであり、会員につきつけられた厳しい命題でありますし、その姿勢は絶えず持ち続けられます。なければならぬものだと思っています。また、審査には展示スペースの制約といった側面もあって、複数出品された作家にとって、展示される作品が一点となる場合が非常に多く不本意なことであると思いますが、私どもにもつらさが残ります。

（彫刻部会員）

### ● スペースデザイン部審査報告

谷 浩二

（彫刻部会員）

スペースデザイン部は応募点数六三点、出品者数六三名でした。この内入選点数は三七点、入選者数三七名で入選率は約五九%という結果です。これらの数字はここ数年ほぼ横這いですが、作品の大型化を受けて展示空間の限界に挑む厳しい審査となつています。

SD部門は空間に関するあらゆるデザイン・作品の提案の場といふ性格から壁面に吊る作品と床面に置く作品の両方が同居します。また、審査会場では壁面作品を一堂に並べて観ることができないので、この両者をいかに公平に審査するかが大きな課題でした。しかし、長年の試行錯誤と協議の結果、現在ではまず下見を丁寧に行い、二度目の本審査では詳細に及ぶ話し合いを重ね、最終的には全員が明確に意思表示するという方法で進められています。これにより一通り入選作が決まるわけですが、今回も選外からの敗者が復活や入選作の見直し動議が出され、議論白熱でした。意見の分かれる作品では

若い方達が自分の世界をめざしてひたすら努力されておられることは、それぞれの作品にその痕跡をみることができ、充分手ごたえがありました。

審査は今年もまた、改めて問題を提起することとなりました。

内容・方法はこれでいいのか、これは

また新作家賞には、奥田、河西、川村、木方、中谷、森の六氏が選ばれました。来年度にはさらに新鮮で魅力ある作品に出会うことを期待していますし、充実した新制作協会彫刻部の展覧会となるよう努力したいものだと思っています。

（彫刻部会員）

# 67回展点描



“二月堂”  
檜・ブロンズ原型

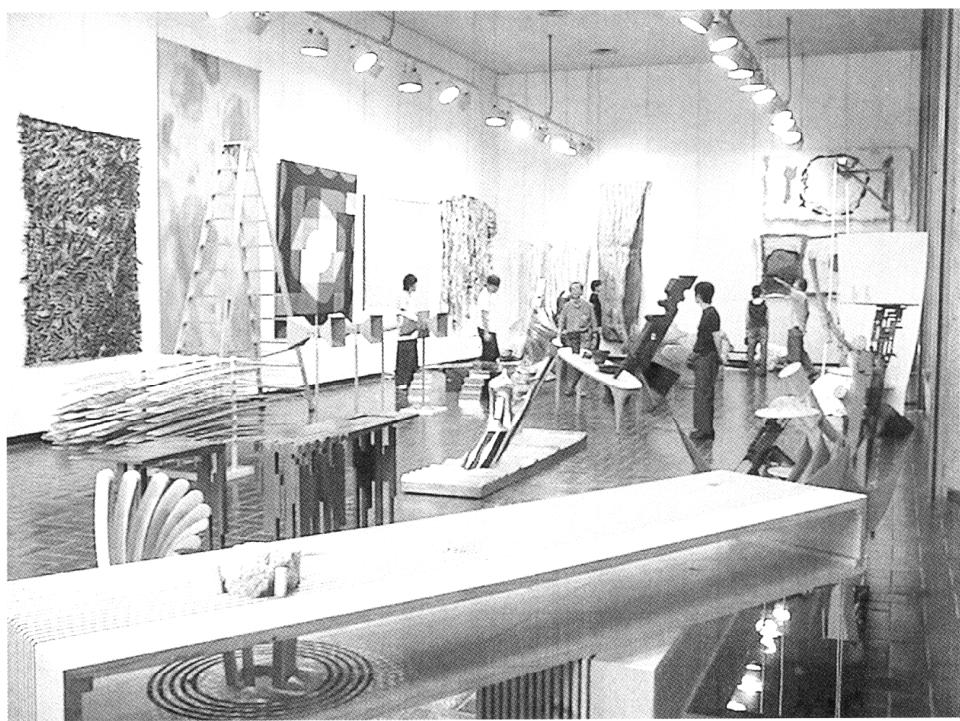
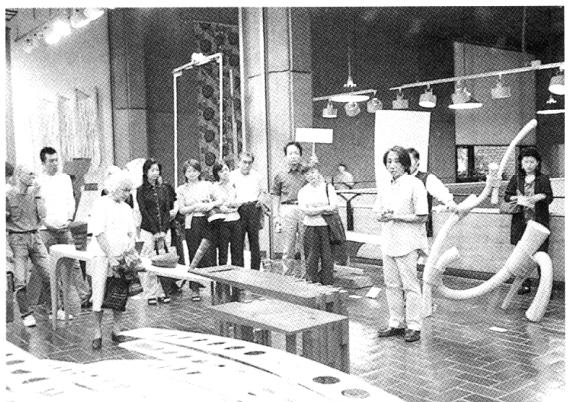
## ひととき

67回展の新作家賞の賞牌は彫刻部の伊藤礼太郎氏に制作を依頼しました。

入選作品の表現動向を端的にまとめることはできませんが、堅固なコンセプトとそれに基づく素材や技法の展開が明快で美しいものが目立ちました。新作家賞を受賞された雨山、正木、山本の三氏とも独自性やメッセージ性が高く評価されました。会員数の少ない部にもかかわらず新会員を迎えるませんでしたが、複数の候補者が挙げられたことは来年への明るい材料で大いに期待が持たれます。

(スペースデザイン部会員)

これが数回繰り返され、長いプロセスを経て最終決定されました。授賞作品選考と新会員推举は、陳列終了後に開場での話し合いと投票、さらに別会場での授賞会議で最終討議され決まりました。各々の会員が芸術家の良心と厳格なる芸術的態度を貫き、公平に臨む姿勢の現れた審査でした。



# 67回展点描

# アート紀行

## ブレハ島から カルナック遺跡へ

福田徳樹



「ブレハの少女」1891年  
黒田清輝 81.0×54.0

朝、ブレスト行きのTGVで発ち、ル・マン、レンヌを経てガングナンまで三時間。長い間待ちサン・マロ湾方面へ鉄道で一時間、パンボルに着く。町から少し離れた舟着き場からフェリーで一周六キロばかり、地の果ての「赤い岩」と別名のある小島には二十分で着いた。千満の差十メートルありポール・クロの突堤は潮流に合わせて入るよう三ヶ所に分けてある。

一八九一年（明治二十四）九月の半月ばかりを黒田清輝（一八六六—一九二四）

は親友の久米桂一郎、河北道介と同行、

ブルターニュの孤島ブレハに過し「ブレ

ハの少女」を描いた。

縦長の画面に眼と口が大きくて脚の細い異形の少女が、台所らしい一隅に立ち画家を凝視している。かつて見たことのない異人の画家を恐怖にひきつるようにして。しかし描く二十五歳の当人も、自らの深奥をモデルから見つめられている。

この傑作を知ったのは四十年前だ。どうか、ブレハとの関係を調べエッセーを書いたことがあるのだが、なお忘れ難く、いつの日か現地を訪ねたい思いが高じてきた。昨年夏、モンパルナスから早

別荘族を合わせ三千人になるが、夜ともなれば静かなもの。宿に荷を解きさつそく歩く。複雑な入り江に囲まれて入り組んだ地形だが起伏はほとんどない。二千口もければイギリス海峡の見える外洋側に出る。耕作地と牧場もあるが、今花の島として知られ、折からラベンダーにふれていた。あたりには小さな島が点在、その名のようインディアンレッドを溶かしたような色で、角ばったところのない丸っこい形に特徴のある岩に囲まれている。

宿は今も三軒だけ、私としては久米の写した岩と海の何点かの写生の場所を特定し、小発表にそなえるのも旅の目的だった。女将は、夜飲みに来る古老に図版写真を見せ聞いてくれたが酔いつぶれて写真にもならない。岩の形は似ていて実際わかりづらい。やつと一図を明らかにできたのは滞在三日目、帰る日の朝だった。久米は波の荒い外海側ではなく、宿に近いためもあるが、陸地に向かう入り江の波の静かな方を選んでいた。

黒田はパリで画友から写生地としてこの島について聞き久米に伝えた。彼は先行して黒田を待ち、黒田が帰った後年夏にも再訪している。當時はパリから馬車で三日がかり、明治二十四年の時のことを久米は十年後の美術雑誌に書いて

いる。宿は二軒で小さく、百姓家の二階を借りて写生に歩いた。スウェーデン、オランダの画家たちと一緒に交遊。宿の老婆が死んだ年若の主人と昔、北海道松前に行つたことがある。今、白髪を抜いて筆を作りかしたような色で、角ばったところのない丸っこい形に特徴のある岩に囲まれている。

宿は今も三軒だけ、私としては久米の



Ile de Bréhat

いる。宿は

二軒で小さく、百姓家の二階を借りて写生に歩いた。スウェーデン、オランダの画家たちと一緒に交遊。宿の老婆が死んだ年若の主人と昔、北海道松前に行つたことがある。今、白髪を抜いて筆を作りかしたような色で、角ばったところのない丸っこい形に特徴のある岩に囲まれている。

ヨーロッパのケルト文化の移り方は難しい問題だが、ブレハの次に泊った半島の南側のヴァンヌの美術博物館で見た沢山の石斧の類などは磨耗する寸前まで削り、優雅とより言えぬ形にまで作りあげたものだ。それはブレハの赤い岩の丸味にも通じ、日本の石器類の思いきりのよきが、アラン（一八六八—一九五一）が第一次大戦中に戦地で書いた『藝術論集』（一九二〇）は愛読書だ。例えば、『もつとも勤勉な農夫がもつとも美しい畑を作る』という一節など、フランス人らしい直観に満ちた書き方だ。それはまたブルクハルトの『ギリシア文化史』（一八九八）にも、バスカルやモンテニューにさえ先はいきつくのかもしれない。そのノルマンディー出身でパリに学んだ秀才のアランも若い日は半島の田舎町ポンティヴィの哲学教師として勤め、地元紙に短文を書き文を磨いた。

第一次大戦の戦死者の多くがブルターニュ出身のこと。ブレハ島の中ほどに沿岸警備隊らしい塔が建ち、女性兵士が、手持ちぶさた気によから手を振ってくれ景を描いた。久米は終生盟友として黒田を援け続けたが、仕事としては美術解剖学を講じ、制作を断つた。しかし青木繁の例えば房総の海景などには影響が残つ

ている。この島には二十年後、森田恒友、足立源一郎なども訪ねている。

それから明治の日本が舞台の『お菊さん』（一八八七年）で知られるピエール・ロチはブレストの海軍兵学校出で、ブレハ辺の海で取材の『水島の漁師』（一八八六年）も書いている。

ヨーロッパのケルト文化の移り方は難しい問題だが、ブレハの次に泊った半島の南側のヴァンヌの美術博物館で見た沢山の石斧の類などは磨耗する寸前まで削り、優雅とより言えぬ形にまで作りあげたものだ。それはブレハの赤い岩の丸味にも通じ、日本の石器類の思いきりのよきが、アラン（一八六八—一九五一）が第一次大戦中に戦地で書いた『藝術論集』（一九二〇）は愛読書だ。例えば、『もつとも勤勉な農夫がもつとも美しい畑を作る』という一節など、フランス人らしい直観に満ちた書き方だ。それはまたブルクハルトの『ギリシア文化史』（一八九八）にも、バスカルやモンテニューにさえ先はいきつくのかもしれない。そのノルマンディー出身でパリに学んだ秀才のアランも若い日は半島の田舎町ポンティヴィの哲学教師として勤め、地元紙に短文を書き文を磨いた。

たが、それは元ナチ軍の建物だったと聞いた。こんな離れ小島にも歴史は影を宿す。海峡は二百キロ少しで英國に達する。その先にはストーンヘンジがある。

カルナック遺跡は約六千年前、新石器時代の三千に及ぶ石のメンヒルとドルメンの建ち列ぶ丘陵地帯である。ブルターニュ半島南西部、ビスケー湾側のヴァンヌから入る。一帯の海浜は観光と避暑地になつてゐるが石群の村の丘へは小さな町から七キロくらいあろうか、貸自転車で登つて行く。

カルナックは幅約百五十メートルに、現在わかるところで十一列、ケルメネット地帯も入れれば延々二キロ余にわたり、ゆっくりとした起伏のある地形をぬつて点々と列んでいる。一個の高さは小さなもので六、七十センチから大きいのは三メートルにもなろう。列の中は今は入らぬよう低い柵があつて外から見るが、人も多くはない。ほぼ西へ向かつて石は大きくなるように配置されている。古代語でDolmenのDolは卓、menは石、Ker menecのKerは村やmenecは高い石の意といふ。

第一印象としては、部族の祭壇の場ではないかということだ。テーブルストーンとして使い得るもののがところどころにあるように見える。そして一帯の他の遺跡は広範囲に及ぶ。

問題は、これらの石は何らかの形を想

定して削つたものであるのだろうか。共感すること、そして協同の作業を経てオリジナルなものを作り出す、その現場のスケールについて考えないではいられない。

もう四十年近い昔、フィルム一枚大の不完全で小さなこの國版をもとにデッサンを重ね、“Landscape D”として新制作展に出品した。百余年前の少女の見つめる先はどこにあるのか、刻々に動く石の景と相まって、思考する。あるいは抽象する思考とは、と、とめどもなく貸自転車をこいだ。肌は陽に焼け頭も少し痛む。チエーンを外し困つていたら通りがかりの紳士があつさり直してくれた。明日はレンヌ、パリを経由、カツセルのドクメンタ展へ向かう。

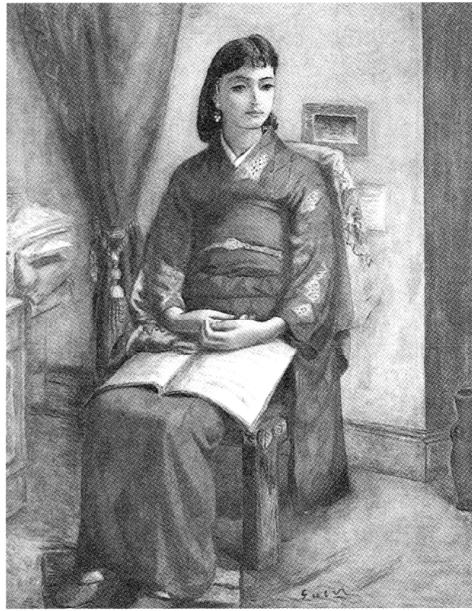


カルナック遺跡（筆者撮）

もう四十年近い昔、フィルム一枚大の不完全で小さなこの國版をもとにデッサンを重ね、“Landscape D”として新制作展に出品した。百余年前の少女の見つめる先はどこにあるのか、刻々に動く石の景と相まって、思考する。あるいは抽象する思考とは、と、とめどもなく貸自転車をこいだ。肌は陽に焼け頭も少し痛む。チエーンを外し困つていたら通りがかりの紳士があつさり直してくれた。明日はレンヌ、パリを経由、カツセルのドクメンタ展へ向かう。

（絵画部会員）

## 生誕100周年記念 猪熊弦一郎回顧展 開催中



《座像》1929年

2003年11月23日(日・祝)～2004年2月8日(日)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

香川県丸亀市浜町80-1 (JR丸亀駅前)

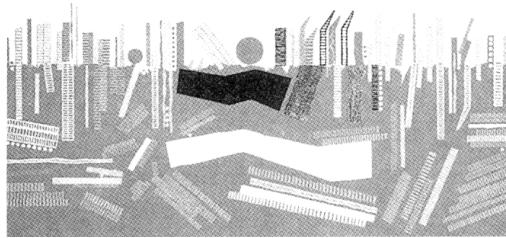
電話 0877 (24) 7755

URL: <http://web.infoweb.ne.jp/MIMOCA/i-mode> <http://web.infoweb.ne.jp/MIMOCA/i/>

休館日：2003年12月25日(木)～12月31日(水)

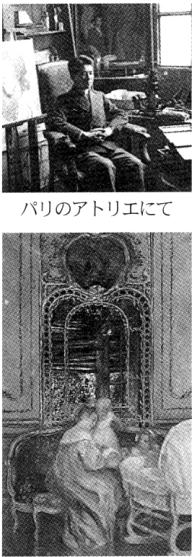
開館時間：午前10時～午後6時 (入館は午後5時30分まで)

観覧料：一般700円/大学生500円/高校生以下無料

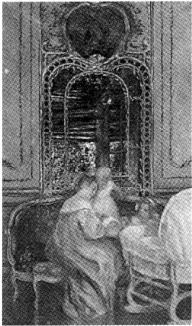


《驚く可き風景(B)》1969年

# 小磯良平の青年時代 開催



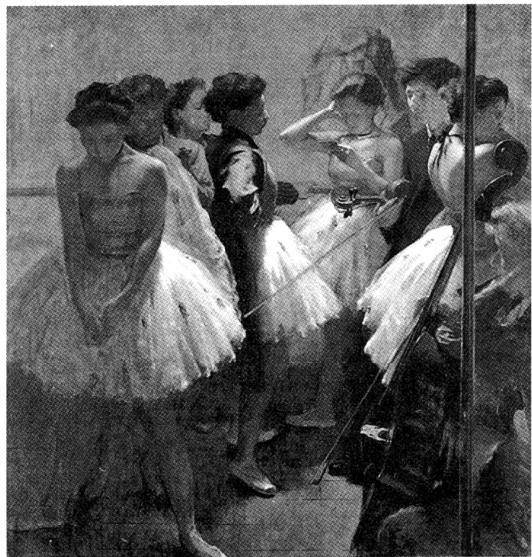
パリのアトリエにて



《練習場の踊り子達》

ラ・トゥッシュ、ガストン  
《赤い部屋》

## 特別展 小磯良平 生誕100年記念



会期 2003年10月4日(土)～12月7日(日)

会場 神戸市立小磯記念美術館

神戸市東灘区向洋町中5-7

電話 078(857)5880

[http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso\\_museum/](http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso_museum/)

## 受賞作家展

### 《伝 言 板》

67回展新作家賞受賞者による受賞作家展を、左記のとおり開催いたします。開催初日にはオープニングパーティーも行います。皆さまのお出でをお待ちします。

#### 絵画部

■会期 04年1月12日(月)祝日～22日(木)

午前11時～午後6時30分

(日曜休廊 最終日午後4時30分終了)

■会場 ごらくギャラリー

03-3571-3706

■オーブニングパーティ

1月12日(月)

午後5時～7時

#### 彫刻部

■会期 04年2月23日(月)～3月6日(土)

午前11時～午後7時

(日曜・祭日休廊 最終日は午後5時終了)

■会場 ギャラリーセイっぽう

03-3573-2468

■オープニングパーティ

2月23日(月)

午後5時～7時

■スペースデザイン部

会期 04年2月15日(日)～2月28日(土)

午前11時～午後7時

(22日休廊 最終日は午後5時終了)

■会場 画廊るたん

03-3541-0522

■オープニングパーティ

2月15日(日)

午後5時～7時

\* 第67回新制作京都展  
(絵画・彫刻・スペースデザイン)  
会期 03年10月21日(火)～10月30日(木)  
会場 京都市美術館

\* 第67回中部新制作絵画展  
会期 03年11月11日(火)～11月16日(日)  
会場 愛知芸術文化センター8F  
愛知県美術館ギャラリー

■会場 ギャラリーセイっぽう  
03-3573-2468

◆涼しい夏の後に審査時からの猛暑、体調を崩された方も多いつたのではないでしょか。それでも本号に訃報を載せずにすんだことはよかったです。  
今、会は解決しなければならない諸問題を抱えています。会員の皆さんにより一層の協力が望まれます。  
(青木)

会報編集委員 絵画部・太田國廣／彫刻部・青木三四郎／SD部・山下勘太郎  
(吉國写植室)

◇絵画部協友推挙  
絵画部協友(入選15回以上)二〇〇三年度より下記六名の方が推挙となりました。  
池田 宏(鳥取) 大木 薫(東京)  
鈴木多美子(東京) 手嶋醇子(愛知)  
古本 茂(広島) 関口貴美(東京)  
◇新国立美術展示施設(ナショナル・ギヤラリー)(仮称)について  
正式名称は「国立新美術館」と決定。借館料等は今年度中に決定される予定です。  
新制作協会(絵画・彫刻・SD)としては、移転か否かを検討中です。

◇新制作協会eメールアドレス  
新制作協会の事務所で受けられるeメールアドレスは以下の通りです。ご利用下さい。「s-seisak@violin.ocn.ne.jp」